

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

六地藏尊さん

名号碑に

三尊像が迎えて下さる



六地藏尊 名号塔 一石三尊像

森共同墓地入口に、六地藏尊（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天）・六字名号碑（南無阿弥陀仏）と一石三尊仏が並んでおられる。

人は亡くなると生前の行いをもとに、どの世界に生まれ変わるか、六地藏尊の前を通り審判を受けると言われています。

程度の違いはありますが、どの世界も苦しみから逃れることはできません。

### 六地藏尊について

**地獄道**…人間は人を愛することによって甘美な喜びを与えられるが、同時にそれによって嫉妬や、怒りや、憎しみのとりこになってそこから出られない人間の行くところ。

**餓鬼道**…欲求不満のことで、それも欲しいものが与えられても、さらにいいものを、すぐれたものを限りなく求めつづける人間の行くところである。

**畜生道**…現代風にいえば、なんのためにこの世に人間に生まれてきたことが、わかってない人間のことである。また、「念の深きは畜生」といわれるように、執念の深すぎる人間の行くところである。

**修羅道**…いいことをしようと思っているのに、ついつい悪いことをしてしまうとか、自分の考えとは逆の行動をとってしまう人間の行くところである。

**人間道**…「念のうすきは人間」といわれるように、何事にも無関心で、自分のことしか考えていない人間の行くところである。

**天上道**…世の中には苦しんでいる人間がいっぱいいるというのに、自分だけはいつも喜んでいるという人間のいくところである。

### 六字名号碑

阿弥陀如来の名をたたえる「南無阿弥陀仏」を名号または六字名号と呼んでいる。

浄土真宗では、全ての死者は阿弥陀如来によって極楽浄土に招かれると考えられているので、六道に生まれ変わることはありません。

### 一石三尊像



一石三尊像

仏教には三世の教えがあって、過去（釈迦）・現在（地蔵）・未来（阿弥陀）は切り離すことができないと説く。

向かって左端の尊像が合掌印の地蔵菩薩立像であるが他は像容から現在のところ判断できない。

花崗岩製でタテ 80 ㍉ヨコ 86 ㍉の長方形に加工された一枚石に三尊を肉彫にしている。



三尊の足下には蓮華座を設け一つの蓮華座上に三尊が立つ。

造立年代であるが尊像の頭部の比率がやや大きく、また衣文などの表現が簡略的であること等から室町後期頃かとおもわれます

交野市の石像文化財Ⅱより

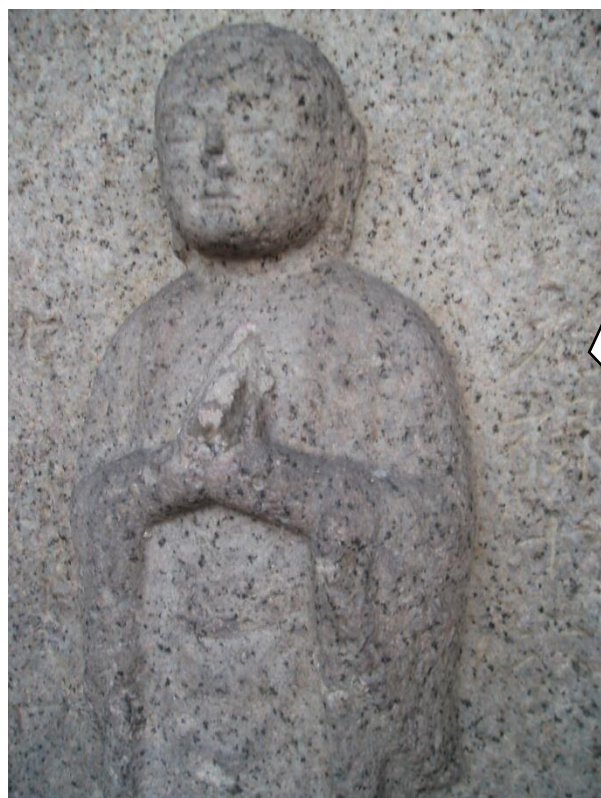
### 交野地方の六体地藏尊はいつ頃から

市内石仏調査時に寺共同墓地の六体地藏尊から元禄十六年（1703）の刻銘を見ることができました。

共同墓地内に六体地藏尊が造立されるのが、この頃からではないでしょうか？



寺共同墓地 向かって右から三体目



元  
禄  
十  
六

市内、共同墓地からの刻銘はこの地藏尊だけ

森共同墓地の一石三尊が室町後期頃と推定するならば六体地藏尊の造立はいつ頃までさかのぼれるか  
一石三尊、向かって左から現在（地藏）■過去（釈迦）■未来（阿弥陀）で、どうかなぁ？

最後は六道の前を通り南無阿弥陀仏を唱え西方極楽浄土へと願い、その前に三途の川を渡らなければ、清流なのか濁流なのか、船頭さんの腕次第、そのためのお金（チップ）をいくらか用意しなければならない。

死者を葬るとき冥土（めいど）での入用として棺内に入れる六文の銭を六道銭という。これだけ用意すればいい。

大金を持っていても使うところはないと思うが皆さんは。

お金は、現世において使っておいてください(笑)  
こんな有り難い、お迎えのお墓は市内の共同墓地も、ここだけ。

私たちの暮らしを高台から先祖さんが見守って下さっているようである。

次号 5/24 日